

つながる力

《No.12》



辺野古土砂全協第5回総会、沖縄で開催



初登場！沖縄で作成辺野古土砂全協のノボリ



5月27日午後、第5回総会記念「その土砂ストップ！沖縄集会」には、沖縄県内から230名、県外から50余名が参加、海勢頭豊さんのコンサートで始まり、熱気に包まれたあつという間の4時間。そして参加者全員で「団結ガンバロウ！」で閉会しました。（詳細、2～6頁をご覧ください。）

—目次—

《沖縄》その土砂ストップ！沖縄集会	生駒研二	2
辺野古土砂搬出反対全国連絡協議会第5回総会報告	松本宣崇	7
辺野古土砂搬出反対全国連絡協議会2017年度決算・2018年度予算		9
沖縄フィールドワークに参加して	大野恭子 向井保子 松井裕子	10
《沖縄》5月28日、辺野古土砂全協、本部港・辺野古で抗議行動に参加		12
《沖縄》第5回総会・沖縄集会を終えて	浦島悦子 原田きみ子	13
《沖縄》5月29日、沖縄県副知事と、そして7月2日、沖縄県議と面談	阿部悦子	15
《熊本》天草・御所浦島採石場跡地整備で協定書締結	生駒研二	16
《東京》首都圏からも！西日本からの土砂搬出ストップ！	富田英司	17
《沖縄》IUCN勧告再考（2018.6.7付沖縄タイムス掲載 桜井国俊氏）		18
インフォメーション 辺野古を土砂で埋めるな！首都圏集会		20

※写真提供…生駒研二・北上田毅・国分賢二・富田英司・松本宣崇

- ・外周護岸が低い状態で埋め立てを開始してはならないこと。
- ・特定外来生物の除去策がなく、沖縄県土砂条例に抵触すること。
- ・大浦湾に活断層が見つかったこと。
- ・ケーソン護岸下部の地盤がN値ゼロの長軟弱地盤だとわかったこと。
- ・飛行場周辺の高さ制限を超える建物があること。



問題点をあげて、北上田さんは「7月までは土砂投入は無理でしょう。しかし、これだけの問題があるのだから知事には早く埋立承認の撤回を表明し

てほしいし、知事選で勝つと、必ずストップできる」と静かに語られた。説得力のある話で、参加者は勇気付けられた。

本部（もとぶ）町の現状

北上田さんの講演の後は、本部港現状報告を本部町議会議員の仲宗根須磨子さんから頂く。実は翌日本部港に行ったが、目の前の採石場から大型ダン



プが次々と岩石を運び込み、巨大な爪のようなクレーンで運搬船に投入している様は、すさまじかった。これを、運び込むと情報はいったら、すぐに仲間が集まり、「やめてください」の行動を起こすと言う。少しでも遅れさせたいから、「やめてください」のお辞儀3回までは警察は手を出さないでとお願いしたと、笑わされる。

全国港湾の闘い



次は全国港湾特別報告だ。全国港湾は国内最大の港湾労組で、組合員2万人余り。2015年9月に『辺野古新基地建設反対対策委員会』を設

置。報告者の諸見力さんは委員会事務局長だ。「労働者の職場が、違法な行為を行う職場であってはならない。使用者は違法な行為を強要しない責任がある」

と、日本港湾協会へ次のような要求書を出しておられる。「・沖縄の港湾労働者は生命と安全が脅かされてきた。沖縄の港湾を戦場としない措置を政府に求めること ・辺野古の新基地建設工事は違法行為。政府の違法行為を看過しないこと ・新基地建設に伴う土砂搬出入作業を行わないように会員店社に指導徹底を行い、禁止すること ・以上について労使協定を締結すること ・政府の違法行為に対し、労使共同で反対運動に取り組むこと」。諸見さんも静かに話された。自分の場で自分のできることを、具体的にやっておられる人は動じない人だと感じた。

休憩後、山城博治さんの挨拶から始まった。「ノーベル平和賞にも推挙された」行動する人だ。昨年末から熊本にも3回来て頂いた。土砂全協への期待も大きい。その元気な姿は、やはり嬉しい。



各地からの報告

続いて土砂搬出予定県各地からの報告。

【辺野古のケーソンをつくらせない

三重県民の会】

毎月のチラシ配り、これからの県内各地での川口真由美さんのコンサート開催、辺野古のケーソンをつくらせない署名活動、JFEエンジニアリングへの要請活動等を紹介され、広く辺野古の問題を訴えていく決意が語られた。

【故郷の土で辺野古に基地をつくらせない！

香川連絡会】

小豆島の岩ズリが辺野古の埋立に使用されることを、講演会・映画会・街頭アピールで県民に広く知らせると同時に、香川県との交渉や、県議会での質問内容が紹介された。

【辺野古に土砂を送らせない！山口のこえ】

自民党の天領のような山口県。ここで知恵を絞り、沖縄県の外来生物侵入防止条例に山口県が協力するように求める要請書を作成、市民グループ34団体と6県議の賛同を得て提出。「出来ることは真摯に対応する」答弁を引き出した。搬出地での集会や写真

展、ビラ入れ等で、地元からの反対の声も上がっている。

【「辺野古埋立土砂搬出反対」北九州連絡協議会】

これまで7本の映画上映会をやった。映画の力はすごい。講演会や街頭宣伝、行政への働きかけも行った。同じ門司地域とされている[山口のこえ]と協力し、両県の議員によびかけた「福岡山口土砂会議」も行っている。平和の地殻変動も起きている。

【辺野古土砂搬出反対熊本県連絡協議会】

恐竜の島「御所浦」の採石場の岩ズリが、辺野古の埋立に使われることを知って3年。地元の「御所浦まちづくり協議会」の奮闘で、事業者・御所浦まちづくり協議会・熊本県・天草市の4者の間で、私たちの要求に近い締結書が交わされた。掘った穴への埋戻しは場内土砂を使うことも取り決められ、辺野古へ運ぶことが可能な土砂は少なくなった。

【南大隅を愛する会】

代表の大坪満寿子さんは町議会選挙で当選され、奮闘されている。南大隅町辺塚は核の最終処分場候補地とされたこともある。山を買収する業者の動きもあり、知事へ採掘権の許可を出さないように働きかけることが最重要課題だ。

【自然と文化を守る奄美会議】

中部採石場から流出する赤土公害で「死の海」となっていることを訴えてきたが、昨年8月三反園知事は3年間の中部採石場の許可を発表した。そして今年、奄美の世界自然遺産登録は見送られた。さらに自衛隊の配置計画も進んでいる。奄美カントリークラブと筋子地区の2カ所。米軍だけではなく、自衛隊の動きも急だ。

【首都圏グループ】

土砂搬出地の情報提供が役割だと感じている。国会議員、関係団体との連携、各種集会での報告・アピールを行っている。今後さらに国会包囲実行委員会、辺野古を土砂で埋めるな！首都圏連絡会を中心に、環境団体と連携を深め、土砂搬出地の現状と運動を紹介していきたい。

提言とまとめ

各地からの報告が終わり、私たちの顧問：湯浅一郎さんから「まとめと提言」をいただいた。奄美での発足からの土砂全協の3年を振り返り、署名活動・対県交渉・沖縄県の条例を活かす取組みを紹介され、今後は沖縄県条例の規制力を高めるため、改正が必要であること。生物多様性国家戦略で「重要度の高い海域」を海洋保護区に指定し、そこでの土砂採取や埋立ては禁止されるべきと訴えられた。



さらに、北東アジア情勢に触れられ、「朝鮮戦争の終結、冷戦構造の解消、北東アジア非核兵器地帯の形成に向かう今、軍事力によらない安全保障の構築は夢ではない」とされ、「沖縄の米軍基地も存在意義がなくなる。我々の闘いは、軍事から非軍事という観点から国の政策を変えていく、その最前線にある」とまとめられ、会場から大きな拍手が起きた。

最後は、阿部悦子共同代表の登場だ。「昨夜、山城博治さんから『集会決議』のことを聞かれ、今朝、顧問の向井先生にお願いをして作っていただいた」と紹介され、今回の沖縄集会に奔走された多くの方々への感謝を述べられ、感極まりながらの集会決議であった。



閉会挨拶は国頭郡本部町出身で翁長知事を支える会派『おきなわ』の平良昭一県議会議員。今回の集会への謝辞と、辺野古新基地を許さない力強い言葉で締めくくられた。そして平良議員の音頭での「団結ガンバロウ」が会場に響いた。素晴らしい集会であった。



全国からの参加者が登壇、沖縄の皆さんとともに声高く「団結ガンバロウ！」

「その土砂ストップ！沖縄集会」 集会決議

本日、私たちは、沖縄市において、命の海に基地はいらないを合言葉に、「その土砂ストップ！沖縄集会」を開催し、以下を確認した。日米政府は、沖縄の基地負担を解消することなく、沖縄県民の度重なる基地反対の意思表示を無視して、辺野古に新しい大規模軍事基地建設を進めている。この新基地建設は、動き始めた北東アジアでの平和への各国の外交努力を無視し、戦争瀬戸際政策を基盤としているものであり、平和への人々の願いを踏みにじるものであり、絶対に許せない。

今年7月にも、ジュゴンが棲み多くの生き物が棲む貴重な大浦湾・辺野古の海への埋め立てを開始するという危機的状况に、私たち、「その土砂ストップ！沖縄集会」に結集した西日本の土砂搬出予定地を中心とした市民は、これまで「ふるさとの土砂を一粒たりとも戦争のために使わせない」運動を強化し、沖縄県と搬出予定県とが協力して辺野古埋立土砂を搬出させないこと、採石による地元の環境破壊を許さないこと、辺野古の海を埋め立てないことを要求して活動を前進させる決意である。

北海道から沖縄までの市民がここ沖縄市に集まり、これまでの活動を総括し、前進させるために、沖縄県をはじめ土砂搬出予定県に対し、戦争に反対し辺野古軍事基地建設を止めさせるために共に行動することを呼びかける。以上、本集会の名において決議する。

2018年5月27日

「その土砂ストップ！沖縄集会」参加者一同



新基地建設に反対し、土砂搬入の阻止を誓う集会参加者＝27日、沖縄市民会館中ホール

辺野古土砂阻止を決意

全国連絡協が集会 緊急署名活動へ

故郷の土を戦争に使わせないと、新基地建設に伴って埋め立て用資材が搬出される地域の市民団体などでつくる「辺野古土砂搬出反対全国連絡協議会」は27日、

沖縄市内で総会と集会を開いた。工事の進捗状況から土砂搬入開始を警戒し、新たに緊急署名に取り組みことなどを決議。全国連絡協の阿部悦子共同代表は「ふるさとの土を一粒たりとも辺野古の新基地建設に使わせない。みんな頑張ろう」と連携を呼び掛けた。全国連絡協は29日、県に対し、初めて土砂の外來種対策強化を要請する予定だ。

(26面に関連)

集会には、辺野古埋め立て用土砂などの搬出が予定される7県を含む18都道府県から約50人、沖縄県内から約170人が参加した。

「戦争に反対し、辺野古軍事基地建設を止めるため共に行動しよう」とする決議案を採択し、緊急署名の取り組みや政界への働き掛けの強化などを確認した。

沖縄平和運動センターの山城博治議長は「埋め立て用の土砂は8割が県外から運ばれる。全国の仲間と戦う決意を新たにしよう」と

連携を呼び掛けた。

全国連絡協が県内で総会を開くのは初めて。集会では北上田毅顧問の講演会や全国港湾労働組合連合会の報告、香川県や熊本県など各地の活動紹介もあった。

2018.5.28 沖縄タイムス1面



「沖縄と全国とが連帯し、絶対に辺野古に新基地は造らせない」ことを再確認し、ガンバロー三唱する県外からの参加者ら＝27日、沖縄市民会館中ホール



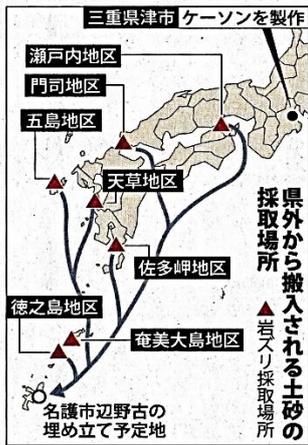
実効性欠く外来種対策

規制厳格化の声相次ぐ

27日に沖縄市で開かれた「その土砂ストップ！ 沖縄集会」。名護市辺野古の新基地建設を阻止しようと全国から市民が結集した。埋め立てを伴う新基地建設の最大局面となる「土砂投入」をいかに阻止できるか。海に大量の土砂が投入されれば、豊かな海洋環境が汚染されるだけでなく、外来生物による固有の生態系破壊も懸念される。集会では、沖縄県の土砂条例に法的拘束力を持たせて厳格化し、さらに土砂を搬出する側の自治体にも土砂条例を制定させるべきとの声が続いだ。

辺野古に土砂 反対集会

辺野古の新基地建設には、2100万立方メートルの土砂が、外から搬入される。これには必要になる。うち8割にあたる1700万立方メートルが県外から搬入される。この土砂搬入は過去に例がない。



「その土砂ストップ！」
沖縄集会では、辺野古の埋め立てに使われる土砂の搬出元となる西日本の各県を中心に、県外で新基地建設阻止へ向けた運動を展開する8団体がそれぞれ活動を報告した。

地元への啓発に危惧

県外8団体、活動報告

「その土砂ストップ！」
沖縄集会では、辺野古の埋め立てに使われる土砂の搬出元となる西日本の各県を中心に、県外で新基地建設阻止へ向けた運動を展開する8団体がそれぞれ活動を報告した。

多く、県はこれを見据えて2015年に特定外来生物を規制する土砂条例を制定した。
沖縄総合事務局による那覇空港第2滑走路工事で、搬出元の奄美大島の石材採石場周辺から特定外来生物のハイイログケモ、オオキンケイギクが見つかった。初の条例適用となった同事業で、条例に法的拘束力や罰則規定がないことなど、外来生物の侵入が止められないことが明らかになった。

在沖基地、日本の問題

新基地阻止、広がる連帯

さらに那覇空港の工事は、水で洗浄可能な石材の搬入で外来生物が発見されたのに対し、辺野古に持ち込まれるのは土砂であり、洗浄ができない。その上、県外から持ち込まれる土砂の量は、那覇空港の最大30万立方メートルに比べて桁違いに多い。

沖繩防衛局は、埋め立て申請書に土砂搬出元として県内から国頭村と本部町のほか、鹿児島県の徳之島、奄美大島、佐多岬、熊本県の天草、長崎県の五島、福岡県などの門司、香川県の瀬戸内の7地域を記した。既に特定外来生物が侵入拡大している地域が含まれている。

早ければ7月にも名護市辺野古海域への土砂投入が懸念される中で開かれた沖縄集会には、県外18都府県からの53人を含む220人が参加した。会場は立ち見が出るほどの盛況ぶり。多くの市民が現状に強い危機感を抱いている。同時に「辺野古に新基地は造らせない」との運動が、全国的に広がっていることが改めて浮き彫りとなった。

「その土砂ストップ！」
沖縄集会では、辺野古の埋め立てに使われる土砂の搬出元となる西日本の各県を中心に、県外で新基地建設阻止へ向けた運動を展開する8団体がそれぞれ活動を報告した。

2018. 5. 28
琉球新報 27 面

辺野古土砂全協第5回総会報告

新たな署名活動を進めよう

辺野古土砂全協事務局長 松本宣崇



辺野古土砂全協第5回総会は5月27日午前9時より、沖縄市の沖縄市民会館で開催され、北海道から沖縄まで各地から60余名が作歌しました。約3時間、昨年度の活動報告に踏まえ今年度の活動について活発な議論が交わされ、今年度の事業計画と収支予算を確認しました。

第5回総会で確認された今年度の活動方針について簡単に報告します。

前回、第4回総会で確認した

- ① 生物多様性国家戦略並びに生物多様性地域戦略と外来種持ち込み防止対策
- ② 『生物多様性の観点から重要度の高い海域』
- ③ 沖縄県条例を活かし、広域連携による協力の要請

今年度の活動も、上記三点を軸に要活動を進めていく。

1 対政府、とりわけ沖縄防衛局への働きかけ

生物多様性国家戦略に即して、外来種の持ち出し・持ち込みを防止することが政府の責務であることをどう担保できるのか、さらに厳しく追及していく。その際、西日本各地の採石業者との契約がまだ行われていない現状を踏まえ、契約をさせない、遅らせるためにあらゆる手段を講じる。

3月15日の防衛省交渉でも、特定外来種防止

対策としての「高熱処理」実験は、動物については昆虫わずか二種類についての実験に留まり、植物については実験すらされていないことが明らかになった。防衛省は、外来種防止対策を持ち得ていないことは明らかだ。

8月にも、本部・国頭など沖縄県内土砂を辺野古の海に投入する工事を強行しようとしている。

さらには、埋立て工事区域海底に広がる琉球石灰岩の軟弱地盤、そして専門家が指摘する活断層の存在、日本の断層の交差による海底の落ち込みと、地質上の問題への対策も示されていない。

防衛省所管の事業も「生物多様性国家戦略」に拘束されると言いつつ、その対応・対策は極めて杜撰である。

防衛省へのさらなる要請と交渉行動、国会議員を通じての資料公開要請、質問主意書提出を求めている。

2 対沖縄県、沖縄県議会に対する働きかけ

① 沖縄県土砂規制条例（以下、沖縄県条例）を活かす取り組みとして、自治体の広域連携として沖縄県が採取県に対する協力要請を求める。

沖縄県から持ち出し県に対し、以下を要請するように求める。

・沖縄県による立ち入り調査への協力、ないし調査依頼。

・持ち込み防止の対策実施に関するチェック体制への協力要請。

② 沖縄県条例の実効性を確保するため、条例改正を求める。

・届け出制を許可制へ。

・事業者に対する罰則規定の追加。

・搬入土砂に関する審査期間の延長。

以上の条例改正を求める。

- ③ 条例制定を主導した県議にも、沖縄県と同じ内容を要請する。
- ④ 沖縄県側から採取6県に対し外来生物防止対策に関する協力要請を進めるよう求めていく。

3 持ち出し県、及び地域における取組み。

土砂採取6県に対し、外来生物防止対策の徹底や採石業の新規や延長許可を下さないよう求めた要請交渉で、6県では、沖縄県からの条例に基づく協力要請について、「あれば検討する」と回答し、姿勢は変化してきている。

- ① 現行沖縄県条例を活かす取り組みとして、採取県で世論形成と、広域連携としての県への協力の働き掛けを引き続き進める。
- ② 採取各県では、地元からの採石免許新規許可・延長許可の停止・搬出反対の運動を強めていく。
- ③ 採取各県が策定する生物多様性地域戦略に、外来生物の自県からの持ち出させない記述を書き込むよう求めていく。

外来生物被害予防3原則「入れない・捨てない・拡げない」を、生物多様性地域戦略に位置づけ、沖縄県からの協力要請の有無にかかわらず、自県の業務として持ち出しを規制していくことを自治体に要請していく。

同時に、「重要海域」は生物多様性国家戦略上、「2020年までに10%と海洋保護区にする」とした愛知目標達成のために選定された。海域を所管する府県に対し、重要海域の環境保全への取り組みを要望していく。

4 新たな署名活動を進めよう

外来種の持ち込み防除対策も示さないまま、生物多様性国家戦略に反する行為を国が先頭に立って進める等、当初なかった問題が浮上し、それにもかかわらず土砂投入に踏み込もうとしている。

生物多様性をキーワードとし、閣議決定の「生物多様性保全戦略」そして「重要海域」の保全や、外来生物防止対策の徹底など新たな知見・課題へ

の対応を追及することを盛り込んだ、新たな署名を開始することを決めた。

5 国会議員へのロビー活動

沖縄等米軍基地問題議員懇談会（以下、議員懇談会）にはすでに、野党各党から50余名の国会議員が参加しており、さらなる国会レベルでの連携を進めていく。

また、立憲民主党は「辺野古新基地の再検証・ゼロベースの見直し」を選挙公約に掲げ、遅まきながら今年になって「再検証委員会」（座長・福山哲郎幹事長）が設置された。立憲民主党はじめ野党各党に対し、土砂投入を目前に控え危機感を訴えて、国会において辺野古基地問題に精力的に取り組むよう要請を早急に進める。

6 各地団体との交流・連携

搬出予定県での採石免許延長、外来生物混入防止対策、重要海域の採石場を論点として、辺野古新基地建設問題に様々な視点から取り組む団体と交流・連携を図り、行政交渉をともに行っていく。

とりわけ首都圏で、首都圏Gを介した「止めよう！辺野古埋立て 国会包囲実行委員会」および「辺野古の海を土砂で埋めるな！首都圏連絡会」との交流・連携を進める。

7 土砂運動にグローバルな視点を

大津共同代表より追加提案された。

沖縄をはじめ、各予定地から土砂搬出を許さないために何より、辺野古新基地建設をストップさせることが肝要である。その世論と確信を広げるために、世界情勢などのグローバルな視点で、基地問題・土砂問題をとらえ、語る力・見据える力を持ちたい。そのために必要な全国中央学習会等を取り組むことを提起するとし、承認された。

8 2017年度決算並びに2018年度予算案

次頁に掲載通り、承認されました。

辺野古土砂搬出反対全国連絡協議会
第3期(2017.4.1～2018.3.31)決算
並びに次期第4期(2018.4.1～2019.3.31)予算案

	勘定科目	補助科目	第3期		第4期予算
			予算	決算	
収 入	前期繰越		1,696,234	1,696,234	1,443,609
	会費		650,000	742,000	690,000
		団体年会費	100,000	160,000	140,000
		個人年会費	550,000	582,000	550,000
		総会参加費等	0	0	0
	事業収入		1,200,000	622,284	610,000
		集会シンポ等物販	200,000	73,984	10,000
		辺野古冊子販売	1,000,000	548,300	600,000
	寄付・カンパ		500,000	1,103,718	800,000
	雑収入		14,100	341	310
		雑収入	14,000	328	300
		受取利息	100	13	10
	辺野古基金助成		0	0	177,400
合 計			4,060,334	4,164,577	3,721,319

支 出	外注費		10,000	0	10,000	
	機関紙費		1,260,000	1,271,633	1,285,000	
		封筒・振替用紙	60,000	79,052	85,000	
		印刷費	800,000	692,723	700,000	
		発送費	400,000	499,858	500,000	
	会議費		500,000	116,019	600,000	
		總會費	200,000	116,019	100,000	
		役員会	100,000	0	250,000	
		集会開催費	200,000	0	250,000	
	旅費交通費		100,000	351,550	300,000	
	通信費		40,000	89,643	70,000	
	事務消耗品費		30,000	0	0	
	資料費		3,000	0	0	
	印刷費		0	0	0	
	支払手数料		3,000	2,221	2,000	
	雑費		1,000	19,462	10,000	
	冊子作成費		0	0	0	
	広告宣伝費		10,000	203,050	0	
	物品仕入		0	67,390	0	
	事務費		0	600,000	600,000	
	辺野古基金助成金支出		0	0	177,400	
	合 計			1,957,000	2,720,968	2,454,400
	当期残高(次期繰越金)			2,103,334	1,443,609	1,266,919

監 査 報 告

辺野古土砂搬出反対全国連絡協議会第3期(2017年度)会計を厳正に監査したところ、帳票書類等正確かつ適正に処理されていることを認めます。

監 査 五 寶 光 基



監 査

野 田 恵 美



沖縄フィールドワークに参加して



読谷村戦跡を訪ねて



原発さよなら四国ネットワーク 大野恭子

ご案内下さったのは、知花昌一さんでした。私が若い頃からずっと知花さんは沖縄の問題を社会に明確に示され続ける方でした。

1987年、沖縄国体で強制された「日の丸」を焼き捨てた件、1995年、在日米軍通信基地として国に不法占拠された「象のオリ」賃貸借契約を拒否した件、1998年～2010年まで読谷村議会議員として活動されたこと、今は真宗の僧侶となっておられること等、私の中で大きな存在でした。その知花さんのお話は本当に深くそして温かいものでした。

1945年4月1日、嘉手納の港を埋め尽した1500隻、18万3千人の米軍艦隊上陸。すでに3月23日、日本兵は撤退しており女子どもばかりになっていた村民は、20のガマに逃げ込んだのです。



知花さんは、対照的な2つのガマ（洞窟）に案内して下さいました。一つは「チビチリガマ」。140名が逃げ込み、12歳以下47名を含む85名が「集団強制死」の場でした。「集団自決」などではなく、日本帝国による軍国主義教育と、琉球差別が追い込んだ結果でした。

もう一つは「シムクガマ」。ここには1000名の人たちが逃げ込んだけれど、その中にハワイ移民帰りの2人の比嘉さんがおり、「アメリカ兵は赤鬼ではない。どうせ死ぬなら太陽を見て死のう」

と説得し投降して全員が生き延びたと。1983年までガマの存在は語られなかったこと、生き延びた村民の苦悩の歴史等を静かに語って頂きました。戦争の記憶は沖縄の日常に今も身近なものとしてあるのです。



日本軍によって朝鮮から強制連行された1万人以上といわれる軍夫や「慰安婦」の方々を慰霊する「恨（はん）の碑」にも案内して頂きました。

チビチリガマや「恨の碑」に納められている彫刻の作者、金城実さんのアトリエにもお連れ頂きました。お二人は、沖縄の歴史の真実を次代に継承し、平和を生み出す活動の強力なパートナーだと感じました。お留守だったのが残念でしたが、圧倒的迫力の作品群に金城さんの、差別され苦しめられた人たちへの鎮魂の想いと、屈せず闘う人々と共にある強靱な精神がピンピンと伝わってきました。瀬長亀次郎さんや阿波根昌鴻さん、金城さんのお母様、朝鮮から連行された人々の像が叫んでいるように、語っているように並んでおり、浄土への入り口のような錯覚を覚えました。

本土の盾としての犠牲を強いられ、日本軍が展開していた故の悲惨な歴史がある沖縄に、過去と同じ歴史を押し付けてはいけなく、私にできることに力を尽くしたいと思います。



泡瀬干潟に立って



海の生き物を守る会 向井保子

このたびは、フィールドワークから始まった。干潮が午前 11 時半ということで、午前中の「泡瀬干潟コース」を選び、泡瀬の「ウミエラ館」に向かう。屋良館長の出迎えを受け、前川氏より、埋立てに関する経緯や貴重な生き物についての話を聞いたのち、一同身支度を整え、早速海へ。



強い風のなか、潮が引いて遥かに続く干潟に進む。声をかけられて立ち止まって目を凝らすと、黒い塊がズロズロと移動している。「ミナミコメツ

キガニ」である。こちらが動くと素早く一斉に砂に潜り込む。体を回転させながら何とも見事に砂の中に身を隠すさまは、見ていて飽きない。あちこちに「スナヂャワン」を見つける。一同歓声を挙げながら時を忘れて波と戯れ、生き物を観察し、貝殻を拾う。館長さんが「テナガカクレダコ」を捕まえ見せてくれた。シーズンには独特の採り方で食用にするという。

前回この地を訪れた際、埋立て工事が始まっていて、大型ポンプで海底の海砂を大量に吸い上げている様子を、辛く悲しい思いで見た。その埋立て地が、干潟の前に長く伸びている。多様な生き物の棲む干潟を埋め立て、プールや運動公園を造るという。もう大切な自然は帰ってこない。

干潟から戻り、採取物を広げて互いに見せ合い、同定作業。「もっと時間があれば…」の思いから、午後もこの場に残留と決め、存分に調査もできた。

翌日からの備えてのエネルギーを充電し、潮が満ちてきた泡瀬の干潟を後にした。



南風原にようこそ！

島ぐるみ会議南風原 松井裕子

5月26日は空梅雨のうえ、気温が1.5度上昇という予報のもと、那覇空港に4名様を迎えて始まった。南風原は読谷や泡瀬に比べ、海はなし、観光的見どころもあるわけでもない、沖縄戦そのものツアーである。

南風原町には陸軍病院の炊事に使われた井戸跡が二カ所。一カ所は接続していた国民学校の校庭にある。本来は那覇にあった病院が、1944年10月10日の米軍の空爆で焼け出された結果であった。もう一カ所は国民学校も焼かれ黄金森の丘に掘った30余りの横穴壕から“飯上げ”に通った喜屋武集落に残る。

跡とはいえ73年前と繋ぐモノがそこにある。20号壕も然り、公開して10年、人が通れば劣化が進むのは承知のうえで、負の遺産から直に学んでほしいと思う。地上戦では軍がヒトもモノも根こそぎ動員する。学び舎を無くした子どもたちも土運びで陣地構築に駆り出された。軍が島民を守ってくれるという信念に支配された結果、村民の43%が命を落としている。軍隊は住民を守らなければかりかスパイ扱いで殺されもした。その歴史を繰り返さないために、町民は戦後62年の初夏、戦争の放棄と戦力の不保持を掲げる憲法九条を石に刻んで碑を立てた。

5月28日、本部町で 辺野古ゲート前で 辺野古土砂全協、抗議行動に参加



本部町・本部港塩川地区で抗議する本部町島ぐるみ会議と土砂搬出反対全国連絡協議会のメンバーら 28日

「戦争加害者、なりたくない」 土砂搬出反対協 本部港でも抗議

【辺野古問題取材班】米軍普天間飛行場の移設に伴う名護市辺野古の新基地建設を止めよう、新基地の埋め立て土砂採取予定地の12府県18団体でつくる「辺野古土砂搬出反対全国連絡協議会」のメンバー約30人が28日、辺野古の米軍キャンプ・シユワゲート前を訪れた。市民と合わせて最大70人が座り込み、「工事をやめろ」と声を上げた。同協議会顧問の湯浅一郎さん(68)＝東京都＝は「日本は生物多様性条約の締約国だ。その日本政府が、生物多様性の豊かな辺野古の海を壊している。抗議の声をもっと広げないといけない」と話した。

一行は、新基地建設で使われる石材の搬出拠点となっている本部町の本部港・塩川地区も訪れ、石材を船に運ぶ大型車に向かって抗議した。「辺野古に土砂を送らせない!」山口のこえ代表の大谷正穂さん(64)＝山口県下関市＝は「それぞれの地が戦争の加害者にならないためにも、連帯して新基地を阻止したい」と声を上げた。

この日は計318台の工事車両がキャンプ・シユワブに入った。海上では船1隻、カヌー13艇が抗議行動を展開した。

2018. 5. 29 琉球新報

辺野古ゲート前で 搬入に抗議



2018/05/28 11:47

2018/05/28 11:56

2018/05/28 12:02

⇒ 運搬船に巨大な爪で石材を積み込む



キケンなので立ち入らないで下さい

⇐ ダンプに立塞がり、石材積み込みを抗議!



2018/05/28 09:31



2018/05/28 09:38

本部港で石材搬出に抗議

写真上 辺野古ゲート前に現れた100数十台のミキサー車とダンプ、延々と続く
写真左上 機動隊の車両でロックアウトされたゲート前の抗議集会
写真左下 ゲート前に座り込む全国から駆けつけた市民の皆さん
写真右下 機動隊を動員し、3人がかりで抗議する市民を引き抜く

辺野古土砂全協第5回総会・沖縄集会を終えて



辺野古土砂全協第5回総会 in 沖縄の開催、前段の泡瀬・読谷・南風原へのフィールドワーク、懇親会そして「その土砂ストップ！沖縄集会」の開催、さらには本部・辺野古の抗議行動と、びっしりと中身の詰まった三日間にわたる一連の行事に、ご協力を頂いた名護市・本部町・南風原町の「島ぐるみ会議」の皆様、紙面を借りて厚く御礼申し上げます。

「その土砂ストップ！沖縄集会」で司会を務めて頂いたお二人に、寄稿して頂きました。（「つながる力」編集部）

浦島悦子さん 島ぐるみ会議名護

辺野古土砂全協第5回総会は5月27日、極東最大の米海軍・嘉手納基地に程近い沖縄市民会館中ホールで開催された。辺野古埋め立て土砂搬出元各地から参加される皆さんが、米軍基地と隣り合わせに住む沖縄の人々の苦しみを少しでもいいから肌で感じたいと、基地の集中する沖縄島中部での開催を希望されたことに感銘を覚えた。

午前中の総会に続いて開かれた「その土砂ストップ！沖縄集会一命の海に基地はいらない」は、ご当地沖縄市選出の仲村未央県議の歓迎挨拶、海勢頭豊さん一行のコンサートで幕開け。辺野古崎の埋立て予定海域の護岸工事が進み、「7月にも土砂投入か」との緊迫した状況の中、県外からの50余人、県内から約230人が参加し、立ち見も出る盛況となった。

辺野古・大浦湾の海へと魂が誘われるような海勢頭音楽の余韻の中で、名護市選出の親川敬県議による開会挨拶、北上田毅さんの講演、全国港湾からの特別報告が行われた。北上田さんは、辺野古新基地建設事業の現在の進行状況、事業者である沖縄防衛局が数々の違法や留意事項違反を繰り返しながら工事を強行していること、埋立て用材（石材、岩ズリ）の問題点（特定外来生物の除去策がない等）、大浦湾の海底の超軟弱地盤や活断層の存在・飛行場周辺の高さ制限など新基地の立地条件そのものが根底から崩れていると指摘し、「土砂投入前に埋立て承認の撤回が不可欠だ」と述べた。

全国港湾労働組合連合会中央執行委員で辺野古新基地建設反対対策委員会事務局長の諸見力さんは、

港湾労働者の立場から「辺野古の海を埋立てる土砂は運ばない」決意を力強く表明した。

休憩をはさみ搬出元各県8団体及び首都圏グループから、各地の活動が報告された。様々な課題や悩みを抱えつつ「故郷の自然も沖縄の自然も守りたい」と奮闘している姿は、県内参加者に「自分たちは孤立していない」と大きな希望を与えた。

湯浅一郎顧問によるまとめと提言「沖縄県土砂条例や生物多様性国家戦略・地域戦略を生かす取り組み、生物多様性・非軍事の観点から国の政策を変えていこう！」、阿部悦子共同代表からの新たな署名運動の提案、集会決議の採択、本部町出身の平良昭一県議の音頭による「頑張ろう！」で集会を締めくくった。

本部町島ぐるみ会議の原田みき子さんとともに司会を務めた私は終了後、沖縄側参加者の多くから「素晴らしい集会だった」「勇気と元気をもらった」と声をかけられたことを付け加えたい。

翌28日、県外参加者の皆さんは、本部町の採石場視察、本部港塩川地区での石材搬出阻止行動の後、辺野古ゲート前の座り込みに参加。ダンプや生コン車の搬入時、炎天下で機動隊の「ゴボウ抜き」に遭いながらも、愛媛・香川の女性たちがゲート前で響かせた元気で素敵な歌声は、座り込み参加者を元気づけただけでなく、若い機動隊員や警備員たちにも届いたと信じたい。参加された皆さま、本当にありがとうございました！（2018.6.4記）

原田みき子さん 本部町島ぐるみ会議

辺野古土砂全協（以下、土砂全協）第5回総会・沖縄集会は多くの沖縄県民に感謝されて終わった。

5月27日午後の「その土砂ストップ！沖縄集会」の会場でたくさんの方から「ありがとう」と労いの言葉を頂いた。一週間たった今でも、辺野古ゲート前でこの言葉を頂く。それはスタッフ全員に捧げられたものであり、とりわけ各県の活動に対する深い感謝が込められているように思う。

そして何よりの成果は、5月29日の謝花喜一郎沖縄県副知事との面談で「(外来生物混入防止対策として)自治体連携は不可欠であり、必要な協力依頼は重要だ」という発言を引き出したこと。さらに各県への立入り調査では、県職員に加え12名の外部有識者で対応することを明らかにした。これまでの県の対応を考えれば画期的な前身である。昨年7月にも土砂全協は県議13名や県職員にロビー活動を行っているし、私自身辺野古の集会や県議の方々へ数回、自治体連携を訴えてきた、やっと努力が報われた感がある。

二つ目の成果は緊急署名を集める決定がなされたこと。すでに約12万筆の署名が集まっているが、新たな文言で集めれば、同じ人でもまた出来るし、7月の本格的な埋立てを目前に「緊急」を訴えれば多くの人の賛同を得るだろう。今集会でも、沖縄市内

に大きな集会が他に二つもあるのに230名の参加を得た。土砂全協に寄せる県民の期待は大きい。県内で多くの署名が集まるだろうし、つながる力が発揮されれば全国的な展開も見込める。土砂全協の発信力に希望を感じる。

これまで県議数名から、「土砂条例の審査基準を厳しくする」と聞いているが、今集会には県議に加え元国会議員や市町村議員の参加があった。みな真剣な眼差しだった。「沖縄は孤立していない。全国でこんなに応援してくれている」と実感しただろう。

闘いの現場では、救急搬送と不当逮捕はそれぞれ70回を超えたのではないか。これから真夏を迎えるとあって、救急搬送はさらに増えるだろう。県外マスコミはこの事実を殆ど書かない。「臭いものにフタ」が現政権の方針らしいが、私たちは生きている。空も大地も海も米軍に奪われている沖縄を未来に残したくない。安倍政権は代替と言いながら「辺野古が出来ても普天間は返さない」と、稲田元防衛大臣に言わしめている。沖縄県民を愚弄するにも余りある。そんな中、土砂全協の活動は県民に夢と希望を与えた。北九州の総会で五島の歌野礼さんの報告を聞き、一条の光明を見出したが、沖縄総会はさらに大きな光となって沖縄を照らしてくれた。(2018.6.5記)

辺野古土砂搬出計画撤回を求める署名

3月15日、第三次提出 23,411筆 合計 117,310筆に

15年3月、全国に呼びかけ、始めた辺野古土砂搬出計画撤回を求める署名、15年10月15日に第一次52,429筆、16年11月1日の第二次41,470筆に続き、3月15日に第三次23,411筆を提出しました。合計117,310筆に達しました。

署名を呼びかけて3年、11万筆を超える署名が寄せられたこと、その大半が一市民の手でコツ

コツと集められた署名の積み上げであることは、大いに評価されるべきだと思います。

さらに第三次提出後12,000筆余りが寄せられており、ぜひとも内閣府に届けたいと思います。

辺野古土砂全協では、**外来生物防止対策のない無謀な土砂搬出計画の撤回を求め、新たな署名を始めます。**

引き続き、皆様のご協力をお願いします。

5月29日、沖縄県副知事と、そして7月2日、沖縄県議と面談 外来生物混入防止へ各県と連携を 沖縄県土砂条例を改正し実効性強化を要請

辺野古土砂搬出反対全国連絡協議会共同代表 阿部悦子

5月25日からの沖縄総会
関連のスケジュールの最後は、
29日の沖縄県副知事謝花喜一
郎氏との懇談・要請行動でした。

全協としてこれまで行ってき
た各県への特定外来生物対策に
ついての要請の経過をお話し、
沖縄県から各県に対して協力要
請をして頂きたい、さらには沖
縄県の「土砂条例」に罰則規定
を入れるなどの強化を求めまし
た。謝花氏は各県への協力要請
については前向きな発言をされ
たものの、条例の強化について
は私たちが望むような言葉を頂
くことはありませんでした。

そこで、去る7月2日、北上
田毅さんのお計らいで、県議会
与党会派の議員さんたちにお目
にかかりました。台風7号の真
っ只中でしたが、「社民・社大・
結連合」の照屋大河議員、「会派おきなわ」の新垣
清涼議員、「共産党」の比嘉瑞己議員の全与党会派
からお集まり頂き、北上田さん、湯浅さん、八記
さん、そして本部町島ぐるみ会議から高垣喜三
さんも参加して下さって、沖縄の土砂条例の強化
によって辺野古大浦湾への土砂投入を止めるため
の具体的な提案をさせて頂きました。

三会派の議員のみなさん、そして夜お会いでき
た仲村未央議員とは、土砂条例制定時に苦労され
た方々だけに、十分な時間を取ってくださり前向
きで熱心な意見交換ができました。

県、調査専門員増員へ

辺野古新基地 外来生物対策、土砂反対協に方針



米軍普天間飛行場の移設に伴う名護市辺野古の新基地建設に関し、謝花喜一郎副知事は29日、他県からの土砂投入前に特定外来生物の侵入がないか調査する専門委員の数を7人から12人に増員する方針を明らかにした。土砂採取予定地の市民団体でつくる辺野古土砂搬出反対全国連絡協議会の阿部悦子共同代表らが、土砂を搬出する自治体との協力関係づくりを要請した席で述べた。

専門委員は、現地の採石地の調査などを実施する。特定外来生物を規制する県土砂条例の初の適用事例となった那覇空港第2滑走路の埋め立てでは、調査地点全てで特定外来生物が見つかり、さらに土砂の量が多い辺野古で人員が足りるか疑問の声が上がっていた。協議会の湯浅一郎顧問は「土砂を搬出する県は自分の県から外来生物を持ち出されるのを食い止めよう」として、協力関係を作っ

てほしいと求めた。謝花副知事は「他県にも協力依頼が必要だ」と応じた。協議会は、土砂条例に罰則規定を設けることも求めた。協議会は要請後会見し、これまでに土砂搬出元の地域を中心に工事中止を求め署名11万7310筆を国に提出したが、土砂投入が迫っているため、全国に対象を広げた緊急の署名活動を始める方針を説明した。

2018. 5. 30 沖縄タイムス

その席で北上田さんが言われた「土砂条例の強化は辺野古埋め立て阻止の最大の決め手」、八記さんが言われた「搬出現地としての最後の砦」、湯浅さんが提案された「新条例案に『生物多様性』の理念を」などの理念が共有できたのではないかと思います。沖縄県議会議員の新たな動きに注目し私たちも活動を続けていきたいと思っています。



天草市御所浦の（有）山口海運採石場の跡地整備に関する協定締結
土砂搬出のストップも可能か？

辺野古土砂搬出反対熊本県連絡協議会事務局長 生駒研二

（有）山口海運（以下、山口海運）の御所浦採石場の跡地整備に関する協定が、山口海運・御所浦まちづくり協議会（以下、協議会）・熊本県・天草市の4者で、4月27日締結された。その主な内容を紹介する（事業期間は1年）。

【山口海運の責務】

○事業の実施に当たっては、跡地整備計画における中央部の掘り下がり採掘跡地の埋戻しを優先的に行う。

○跡地整備計画による事業の実施に当たっては、採石場内の土石等を使用する。

○事業の実施に当たっては、熊本県の指示及び指導に従い、事業の速やかな進捗のために必要な措置を講ずる。

○最終的な跡地整備の実施に必要な土石は、採石場内の土石で確保するものとし、跡地整備に必要なとしない土石等については、場外に搬出することができるものとする。なお、跡地整備の最終的な段階で緑化に適した土が不足する場合には、採石場外からの土の搬入について別途協議を行う。

【山口海運の報告と熊本県の立入指導】

○作業工程表に従い、作業の進捗状況に応じて報告を行わなければならない。

○熊本県は、前条の報告があった場合及び進捗に応じて随時、採石場に立ち入り、山口海運に対し必要な指導及び指示を行う。

【熊本県及び天草市の立入調査等】

○跡地整備計画の実施状況について確認を行うため、立入調査を実施し、又は報告を求めることができる。この場合において拒んではならない。

○立入調査を行う場合は、協議会も同行できるものとし、山口海運は協議会の同行に協力する。

【環境モニタリングの実施】

○山口海運は、採石場内で使用した製鋼スラグが周辺環境に影響を及ぼしていないことを確認するため、協議会の立会いのもと、熊本県及び天草市の指導により、定期的に周辺海域等の水質等の調査を実施し、その結果を熊本県及び天草市に報告しなければならない。

○熊本県は、調査結果を協議会に提供する。

【継続協議事項】

○本件認可期間終了後の跡地整備計画に関すること（緑化計画、本件認可申請の西側の掘り下がり採掘計画、本件認可申請の西側の災害防止のための築堤、盛土計画及び雨水排水計画を含む。）

○採取期間及び跡地整備期間に関すること

○跡地整備状況の確認方法に関すること

○採石場に搬入済の製鋼スラグに関すること

【本協定締結後の認可申請の条件】

○山口海運は、本件認可期間後の採石法第33条の3に規定する岩石採取計画認可申請を行うための条件として、協議会の同意を得るものとする。

埋戻し現場での製鋼スラグや浚渫土砂の発見から、「御所浦を海のゴミ捨て場にするな！」「掘った土砂で池になった穴を埋め戻させれば辺野古に持っていく土砂はない」と、取り組んでこられた御所浦まちづくり協議会の素晴らしい成果です。弁護団も「裁判で闘ってもこれ以上の結果は出ない」と判断されています。「これから(株)隆勢をどうするか、正念場だ」森会長は言われます。私たちも更に信頼関係を重ね、その取り組みを支援し、『恐竜の島御所浦』と『ジュゴンの海辺野古』の自然と生活を活かす未来に向け、頑張ります。



首都圏からも！

西日本からの土砂搬出ストップ！

辺野古土砂搬出反対首都圏グループ 富田英司

私たち「辺野古土砂搬出反対首都圏グループ」（略称・首都圏グループ）は「辺野古土砂搬出反対全国連絡協議会」（略称・全協）参加の埋立土砂搬出地の 18 団体と一緒に土砂搬出阻止運動を取り組んでいます。

なぜ、私たち「首都圏グループ」が西日本の「全協」に参加しようと決めたのか？

東日本・首都圏の人たちは、「辺野古の埋立土砂（2100 万 m³）の 8 割が西日本から」運ばれることをほとんど知らないことに気が付いたからです。鹿児島県の奄美・南大隅、熊本県の天草、長崎県の五島、福岡県の門司、瀬戸内海では山口県の 2 島、香川県の小豆島から土砂が搬出されることを知らないのです。

そこで、首都圏でもこの「土砂問題」を広めていく必要があると、この間、国会議員への働きかけ、沖縄等米軍基地問題議員懇談会への情報提供、防衛省・環境省交渉、西日本の搬出地の視察、土砂搬出反対の署名活動、「美ら海壊すな！土砂で埋めるな！5.26 国会包囲行動」参加等の活動を精力的に取り組んできました。



18.6.9 山城さんを招き「止めるぞ！土砂投入6.9集会」

今回、東京において土砂投入に反対していく新しい組織「辺野古の海を土砂で埋めるな！首都圏連絡会」が結成されました。首都圏周辺において沖縄問題に取り組んでいる市民団体 30 団体以上

が加入しています。

さっそく6月9日、山城博治さんに来てもらい「止めるぞ！土砂投入6.9集会—軍事基地で辺野古の海をつぶすな」を開催しました。



18.6.4 新宿で辺野古を埋めるな！街頭キャンペーン

いよいよ安倍政権は、8月から辺野古の海に土砂を投入しようとしています。

私たち「首都圏グループ」も沖縄の皆さん及び西日本の「全協」の皆さんと連帯して、土砂搬出を阻止する決意です。共に頑張りましょう！



18.6.24 新宿で「土砂で埋めるな！街頭宣伝」

追記：6月24日には、新宿で「土砂で埋めるな！街頭宣伝」を取り組み、その後「新宿デモ」も行い、28日には、辺野古埋立工事元請・大成建設本社前で「統一抗議行動」も取り組みました。

その後、新組織「辺野古の海を土砂で埋めるな！首都圏連絡会」は、「辺野古の海を埋めるな！首都圏キャンペーン」に取り組んでいます。

文化

外来種侵入に万全措置を

土砂条例改正 喫緊の課題

N勧告再考

桜井国俊

日本政府が推薦した奄美・琉球の世界自然遺産登録については、「登録延期」との勧告が国際自然保護連合(IUCN)によりなされた。「登録延期」の主な理由は、米軍北部訓練場の存在を無視・軽視したことにある。やんばるの自然の価値が適切に保全される体制を整えた上で登録されるよう、関係者一同で再度挑戦することとなった。

その際に忘れてならないことが一つある。2016年8月31日にハワイで開催されたIUCN総会において採択された「島嶼生態系への外来種の侵入経路管理の強化に関する勧告」の存在である。IUCNは、島嶼生態系が外来種の影響を受けやすいことを十分に認識しており、日本政府に対しては世界的にも貴重な奄美・琉球の島嶼生態系を外来種の侵入から守る管理体系の確立を要請し、米国政府に対しては日本政府への協力を求めたのである。日米両国政府は、この勧告案の審議の際

し棄権したが、圧倒的多数で採択されたこの勧告を無視することはできない。貴重なやんばるの自然を未来につなぐ責務を有する沖縄県と沖縄県民は、具体的な手だてを通じて日米両国政府に外来種の侵入を防止するよう迫っていくことが求められる。

知床上回る生物

IUCN勧告が問題視しているのは、辺野古・大浦湾への土砂投入である。沖縄とは生物相が異なる本土各地から大量の土砂が搬入されることで外来種が侵入し、既存の生態系をかく乱することが危惧されているのである。

いま辺野古の海では、抗議する市民の声を無視して連日数百台のダンプトラックが石材を搬入し、護岸造成が進められている。沖縄防衛局は、本年7月にも辺野古側での外周護岸の造成を終え、外海と仕切られた内部に土砂を投入するといわれている。辺野古・大浦湾には、防衛局が行った環境影響調査でも絶滅危惧

種262種を含む5800種以上の生物が確認されており、これは世界自然遺産の知床で確認されている生物約4200種を上回る。シュゴンがすむ辺野古・大浦湾は、やんばるの森と共に保全し、未来世代に伝えていくべき貴重な自然である。本土からの土砂の大量投入とそれに伴う外来種の侵入は、この貴重な自然に取り返しのつかない破壊をもたらす。

厳しい業者任せ

沖縄県と沖縄県民にとつて、埋め立て事業に伴う土砂の大量投入による環境破壊を抑止する手だてとなるのは「土砂条例」である。「土砂条例」は2015年7月13日の県議会にて制定されたものであり、埋め立て事業者に対し

特定外来生物が付着または混入している埋め立て用材を県内に搬入することを禁止している(条例3条)。この条例の第1号適用事業となったのは那覇空港滑走路建設事業であり、奄美大島から25万立方メートルの石材が搬入された。

条例4条に基づき行われた事業者の届け出では、特定外来生物は付着も混入もしていないということであったが、条例8条に基づき行われた県の立ち入り調査によって、3カ所の採石場と3カ所の積み出し港の全てにおいて特定外来生物のハイログケモが検出され、他にオオキンケイギクも確認された。業者任せでは特定外来生物の侵入を阻止できないことが明らかになったのである。そのため県は、条例9条に基づき、ダンプトラックに石材を積んだ状態で120秒間シャワー洗浄することや、仮置き時にシートをかける等の対策を指示した。

那覇空港滑走路増設事業への「土砂条例」の適用は、この条例の限界と課題を明らかにした。辺野古への県外からの搬入土砂量は1600万立方メートルを超え、那覇空港への石材量25万立方メートルをはるかに上回り、しかも県外多数の搬出元を同時に立ち入り調査する行政実務体制の確立が求められる。県は、調査に携わる専門委員の数を7人から12人に増員する方針を明らかにしたが、審査期間の延長も必要であろう。現行条例では90日となっているが、同時に多数の搬出元を審査するには審査期間が制約となると考えられるからである。

また現行条例は「届出」制であるが、これを「許可」制とすることが必要だ。1973年に改正された現行公有水面埋立法は、その4条1項2号において、「その埋立が環境保全及び災害防止につき十分配慮していると認められる場合以外には、知事は埋立免許を為すことが出来ない」と規定している。この「環境保全」には、「外来生物の



侵入防止」が当然言われ、知事が「県民の海」の環境保全の責務を果たすためにも「許可」制とし、知事の指示に違反した事業者に対する罰則規定を追加することが求められる。

土砂全協の協力

「どの故郷にも戦争に使う土砂は一粒もない」をスローガンに、辺野古・大浦湾に土砂搬出が予定されている全国12県18団体の人々が「辺野古土砂搬出反対全国連絡協議会」を発足させている。辺野古土砂全協は本年5月26日、28日に第5回総会を沖縄県で開催したが、29日には阿部悦子共同代表以下のメンバーが謝花喜一郎副知事を訪ね、搬出元の自治体と沖縄県が搬出阻止のために協力関係を構築するように提言を行った。

土砂全協は、搬出元の自治体に働きかけを行い、「土砂条例」に基づき沖縄県から依頼があれば協力するとの回答を多くの自治体から得ている。今、これらの自治体は生

物多様性基本法に基づき生物多様性地域戦略を策定しており、外来生物の侵入防止の意識は既に形成されている。土砂全協は、搬出元となる可能性のある自治体に外来生物の送り主にならないようにとの働きかけを行い、一定程度の理解を勝ち取っているのである。多くの搬出元に沖縄県が同時に対応するのは極めて困難であることから、この自治体間の連携は極めて重要である。

なお土砂全協は、「土砂条例」をより実効性あるものとするために、「届出」制を「許可」制に、罰則規定の追加、審査期間を90日以上、という3項目の改善要請も副知事に行った。

基地建設は頓挫

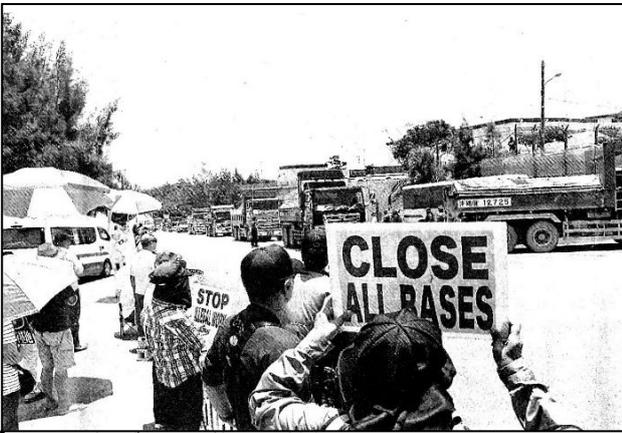
那覇空港滑走路増設事業の場合には、外来生物の駆除法として石材の洗浄が行われた。しかし辺野古に投入されるのは土砂(岩入り)であり、洗浄すれば土砂分は流れてしまうので使用は不可能である。そこで沖縄防衛局は、高熱処理、くんじょう処理、塩水処理などの実験を行ったが、実験室では外来生物の駆

2018. 6. 7
沖縄タイムス「文化」欄



除が可能であっても、大量の土砂にそれを適用することは不可能である。

従って、搬出元の自治体の協力を得ながら採石場に立ち入り調査を行い、そこでアルゼンチンアリ等の特定外来生物が検出されたならば、その採石場からの一切の土砂の搬入の中止を指示すべきである。この中止指示を有効ならしめるためにも上記の条例改正が喫緊の課題である。奄美の事例からも分かるように、特定外来生物は必ず検出される。それに基づいて、知事が罰則規定に裏付けられた形中止指示を出せば土砂搬入不可能になり、辺野古新基地建設は頓挫することとなるだ。(沖縄大学名誉教授)



砕石を運び込むダンプカーにプラカードを掲げて抗議する人々＝5月29日、名護市辺野古の米軍キャンプ・シュワブゲート前

桜井国俊先生とは

1943年静岡県熱海市生まれ。東京大学卒、工学博士。沖縄環境ネットワーク世話人。

東京水俣病を告発する会など多くの市民運動に関わる。

WHO や JICA の環境専門家として多くの途上国で働く。青年海外協力隊の環境教育隊員の育成に25年にわたり関わる。

東京大学客員教授、沖縄大学教授、沖縄大学学長などを経て現在沖縄大学名誉教授。

翁長知事が設置した第三者委員会の委員として辺野古埋立承認の法的瑕疵を解明。

昨年、北九州市で開催した辺野古土砂全協第4回総会記念シンポで基調講演を頂いた桜井国俊・沖縄大学名誉教授が、第5回総会記念「その土砂ストップ！沖縄集会」にご参加してくれました。

沖縄集会直前に報道された国際自然保護連合による奄美・琉球の世界自然遺産登録の「登録延期」勧告や、集会での講演や各地からの報告と辺野古土砂全協の謝花沖縄県副知事との面談を踏まえた、桜井先生の論稿が、2018年6月7日付沖縄タイムスに掲載されました。

ぜひ多くの市民の皆様にお読みいただきたく、転載します。(「つながる力」編集部)

インフォメーション

土砂で辺野古に運ぶな！本土からの特定外来生物

8月土砂投入ストップ！首都圏集会

7月25日(水) 18:00 開場 18:30 開会

全水道会館4階大会議室 (JR中央線・地下鉄三田線「水道橋」)

主催 辺野古土砂搬出反対全国連絡協議会・辺野古土砂搬出反対！首都圏グループ

共催 辺野古土砂全協の海を土砂で埋めるな！首都圏連絡会

協賛 「止めよう！辺野古埋立て」国会包囲実行委員会

・ ・ 防衛省要請交渉 ・ ・

7月26日(木) 11:00~12:00

(10:00 参議院議員会館ロビー集合)

参議院議員会館・地下1階 107号室

糸数慶子参院議員のご仲介で、4回目の交渉が実現しました。ぜひご参加を！

連絡先・事務局 (携帯:090-3638-0187 E-mail:nmatchan@ms8.megaegg.ne.jp 松本)



せつちをせつちとせつち

☆ 稲嶺進さん講演会 ☆☆

8月5日(日)14:00~

北九州市立商工貿易会館(北九州市)

主催: 辺野古土砂搬出反対北九州連絡協議会

☆ 辺野古土砂北九州第4回総会 ☆☆

9月1日(土)14:00~

北九州市 未定

主催: 辺野古土砂搬出反対北九州連絡協議会

2018年度会費のお願い

土砂全協も4年目に入りました。

2018年度団体・個人会費のお納めをお願いします。

— 郵便振替口座 —

番号 01750-8-144158

名義 辺野古土砂搬出反対全国連絡協議会

■ 編集後記

◎ (松本) 辺野古土砂全協第5回総会には全国から50余名が、沖縄に足を運び、県内からも230名が参加して下さり、盛会のうちに一連の行事を無事終えることが出来ました。会場となった沖縄市で全ての準備を怠りなく整えて下さった名護市、本部町、南風原町の島ぐるみ会議の皆様には厚く感謝申し上げます。沖縄からの、辺野古土砂全協をはじめ本土側の活動への期待に全力で応えていきたいと思ひます。

《 辺野古土砂搬出反対全国協議会ニュース 》

発行責任者…全国連絡協議会共同代表 大津幸夫(自然と文化を守る奄美会議)

阿部悦子(環瀬戸内海会議) hibi_etsuko@yahoo.co.jp

編集…松本 宣崇(環瀬戸内海会議) nmatchan@ms8.megaegg.ne.jp

八記久美子(門司の環境を考える会) kanpanerura8k@mail.goo.ne.jp

連絡先…愛媛県今治市別宮町9-7-4 阿部悦子 TEL090-3783-8332

